

JAIRO Cloud: researchmap連携機能についての 最新状況

国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 林正治

> 2025年度第1回JPCOAR Webinar 2025年7月16日





NII RDCのOA加速化事業の概要

図書館員が

機関の論文および根拠データを、 機関リポジトリに簡単に登録&公開できる

- 4 OAダッシュボードの機能強化(機関向け、研究者向け)
- 5 OAアシストのメール機能等の強化、APIの開発
- 6 OAアシストのポリシーDBの整備とポリシー確認機能の開発
- フ リポジトリ(JC)でOAコンテンツを分かりやすく見せる機能
- 8 リポジトリ(JC)利用機関へのアクセスをモニタリング



研究者が

研究PJデータを、自分自身で、 または図書館を介して、 機関リポジトリへ一括登録できる

- 1 データ管理 (GRDM) での査読付論文(著者最終)と 書誌情報の登録機能の開発
- 2 論文と根拠データを紐づけて、メタデータをリポジトリ (JC) へ登録する機能の開発
- 3 論文登録業務プロセスの研究者と図書館の双方の負荷軽減のためのワークフローシステムの開発

政府機関が

日本のOA加速化の成果が<mark>機関ごとに確認</mark>できるようになる 日本のOS状況がわかる(G7対応含む)

- GiNii Research機関向けダッシュボード OA論文、研究データ、科研費、国際共著等に関する指標ページ構築
- French Open Science Monitor日本版 (文献メタデータ取込、OA指標算出、表示ウェブアプリケーション)

即時OA義務化の円滑な運用に向けた機能を開発



researchmap連携機能開発の背景と目的

課題

- 科研費審査: researchmapへの業績情報登録が必須
- **2025年度からのOA義務化:** 機関リポジトリでの論文・根拠 データ公開が前提
- 研究者の二重登録負担: researchmapと機関リポジトリ双方への登録作業発生

目的

- 二重登録の解消:研究者の負担軽減
- 効率的な情報公開: 研究成果の円滑な共有と活用促進



現在開発中のresearchmap連携機能

- ① JAIRO Cloud→researchmap連携(業績登録機能)
 - JAIRO Cloud登録アイテムのメタデータをresearchmapの業績情報 として登録する機能。連携タイミングは日次。
- ② researchmap→JAIRO Cloud連携(流用入力機能)
 - - ①業績登録機能



▶researchmap

②流用入力機能

二つの機能で二重登録負担を解消



機能の準備

- JAIRO Cloudの管理画面から設定
 - researchmapのAPI KEYを取得してJAIRO Cloudへ登録
 - researchmapのマージモードを選択して保存

researchmap			
APIキー:	client idキー	ファイル選択 登録済	
	private‡—	ファイル選択 登録済	
		★ 保存	
マージモード:	マージ(類似デー	· タ優先) ~	
		★ 保存	

※画面は開発中のものです。リリース時には変更されている可能性もあります。

所属機関担当者として機関所属研究者の業績情報を登録



マージモード

- マージ(類似データ優先)
 - 既存の類似データを基に入力データをマージ
- マージ (入力データ優先)
 - 入力データを基に既存の類似データをマージ
- 追加(類似データがあればエラー)
 - 新規データとして登録
 - 類似データがある場合はエラー
- 追加(入力データ強制)
 - 類似データがあっても強制的に新規データとして登録
 - 類似ドキュメントが機関以外(本人相当)によって登録/更新されている場合は追加

マージモードは機関リポジトリで一律設定



所属研究者の権限設定

●所属研究者の権限設定で「所属機関事務担当者による編集」が 許可されていること

所属機関事務担当者

所属機関事務担当者による編集

- 編集を許可する
- 編集を許可しない
- ◎ 自動的に反映する
- 反映する前に本人が確認する
- 生年月日、性別、国籍、eメール、基本情報、業績情報の公開/非公開情報の表示
- 基本情報、業績情報の公開/非公開情報の表示
- 基本情報、業績情報の公開情報のみの表示

researchmapを組織管理している大学を前提とした機能



連携アイテムの条件

- 1. researchmap連携対象アイテムと指定されていること
- 2. researchmap連携対象の資源タイプであること
- 3. 公開アイテムであること
- 4. アイテムの「著者」や「コントリビュータ」に設定された著 者情報(著者DBレコード)に、登録先のresearchmapの研究 者ページのURLが設定されていること
- 5. 必須項目が登録されていること

CRIS機関へ自動連携

researchmap

前回連携結果:なし

マージモードは機関リポジトリで一律設定



researchmap連携対象の資源タイプとは?

 JPCOARスキーマの資源タイプのうち、researchmapの業績タイプとその詳細タイプとのマッピングが定義されたもの (基本的にすべての資源タイプをマッピング予定)

資源タイプ	業績タイプ	詳細業績タイプ
journal article	published_papers	scientific_journal
departmental bulletin paper	published_papers	research_institution
dataset	Works	

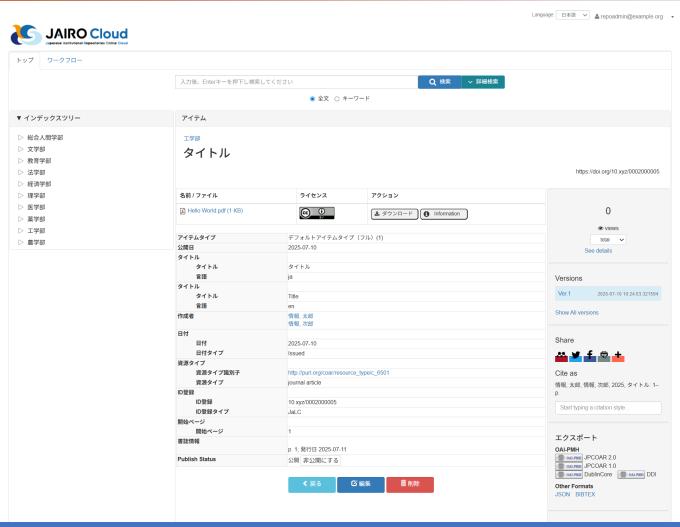
詳細業績タイプにdatabase があるWorksでいいのか? 今のところ研究データに対 しての明確な業績タイプ、 詳細業績タイプはない認識

業績タイプと資源タイプの違いに苦労





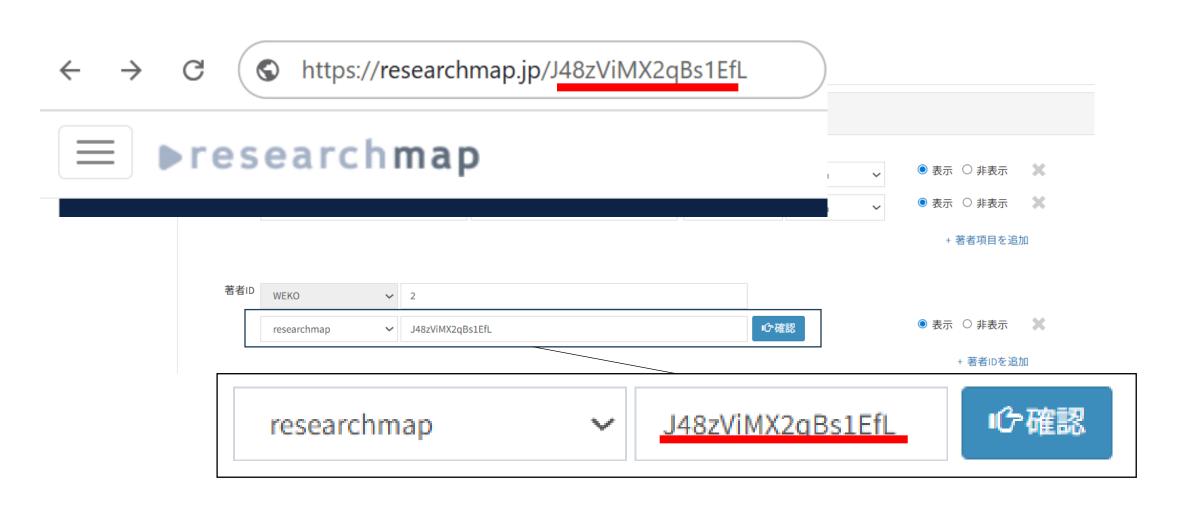
researchmap連携イメージ紹介



アイテム登録・編集画面で連携を指示



著者DB経由でresearchmapのIDを指定



アイテム登録・編集画面で連携を指示



アイテム登録時にresearchmap IDを紐付け

作成者識別子	
作成者識別子Scheme	WEKO
作成者識別子URI	
作成者識別子	2
作成者識別子Scheme	researchmap
作成者識別子URI	https://researchmap.jp/J48zViMX2qBs1EfL
作成者識別子	J48zViMX2qBs1EfL

アイテムに登録されたresearchmap IDをもとに連携を実施



researchmap連携可否の設定



前回連携結果:成功 (2025-07-11)

チェックされたアイテムは一定のタイミングで連携を実施



researchmap側の動作イメージ





新規登録時のイメージ



JPCOARスキーマの要素と対応付けられた項目へ値を連携



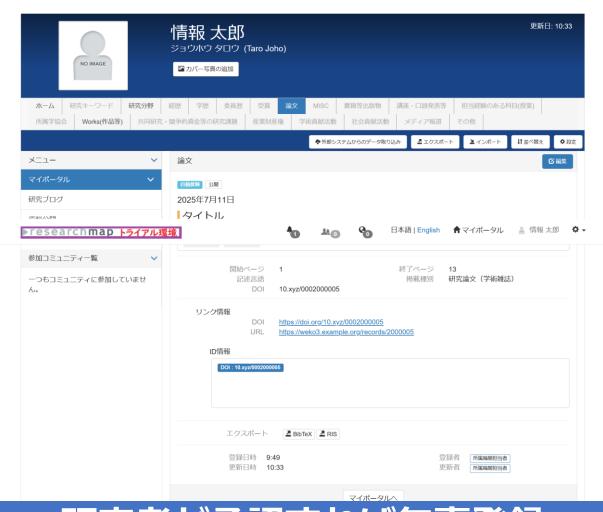
JPCOARスキーマとresearchmap要素の対応付け例

JPCOAR schema	researchmap
dc:title	paper_title
dc:title	book_title
dc:title	presentation_title
dc:title	work_title
dc:title	other_title
datacite:description	description
dc:publisher	Publisher
jpcoar:sourceTitle	publication_name

対応項目は修正対応中



researchmapの詳細画面



研究者が承認すれば無事登録



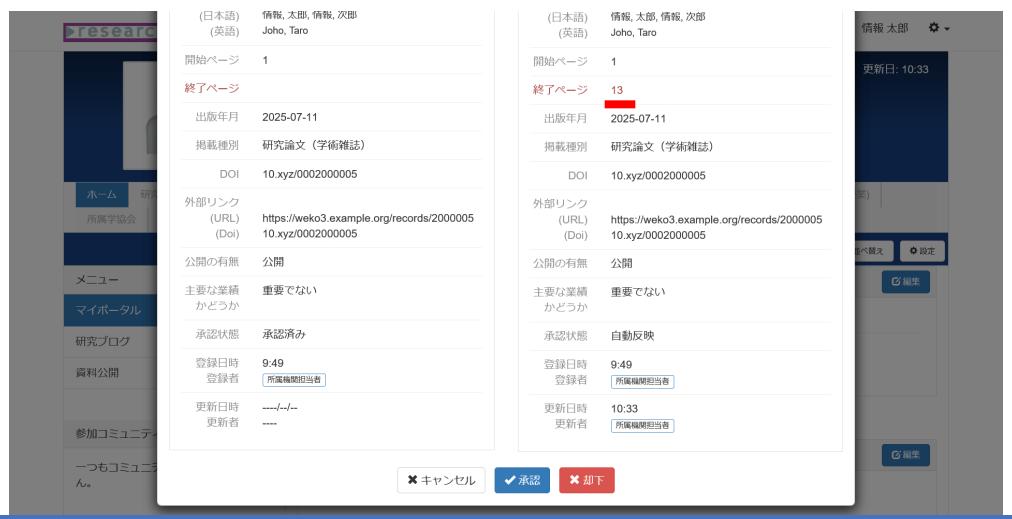
更新時のイメージ



通知内容が更新に変化



更新内容の確認画面



更新箇所を赤字で表示



変更反映後





まとめ

- 連携指定されたアイテムのメタデータをresearchmapへ登録
 - 同一業績に複数著者を紐付けている場合は、各著者の業績として登録 (管理機関所属の著者のみ)
- 一括登録時はresearchmap連携フラグを利用



研究者の二重登録作業負荷を最小化



流用入力機能

指定する業績情報を1件単位でメタデータとして流用入力する機能

業績ページのURL:

https://researchmap.jp/J48zViMX2qBs1EfL/works/1572985



既存のメタデータ流用入力機能に機能を追加



まとめ

- researchmap登録された業績情報を利用してアイテムメタデータの流用入力を実施
- 現状、業績情報のpermalinkの入力が必要
 - 不便だが現状入力時点で誰の業績登録か不明なため業績情報を具体的に 指示させる手法を選択



▶ research map

②流用入力機能

JAIRO Cloudとして①を推奨。②は補完的機能



researchmapへ期待すること①

エクスポート

登録日時 07/10

更新日時 8:56

BibTeX RIS



ファイルへの直接リンクや統計値が連携できないか

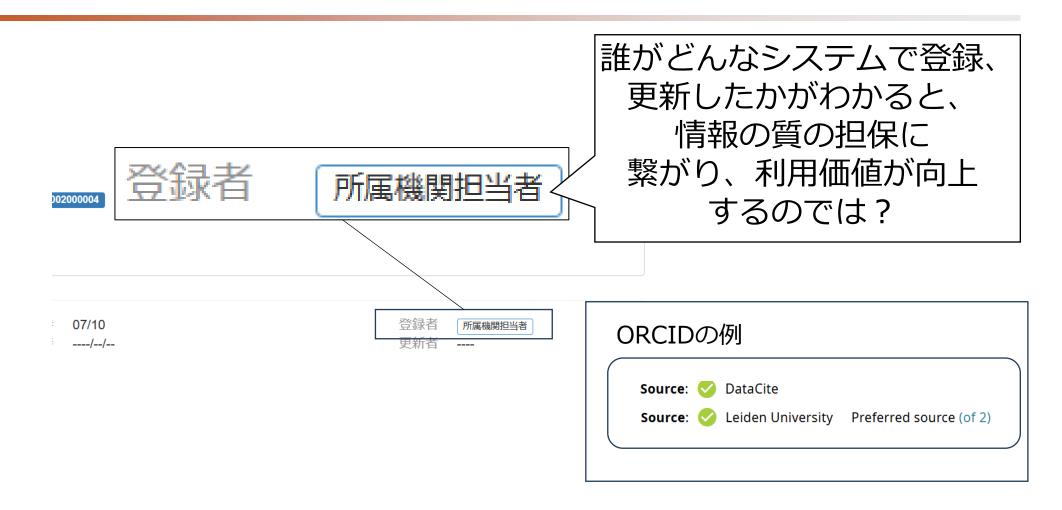
論文リストへ

所属機関担当者

更新者 本人情報 太郎



researchmapへ期待すること②



メタデータの質保証はAI時代では重要な要素



まとめ

researchmap連携機能により、 JAIRO Cloudにコンテンツとメタデータを集約させ、 研究者としての業績情報をresearchmapで発信

- ① JAIRO Cloud→researchmap連携(業績登録機能)
- ② researchmap→JAIRO Cloud連携(流用入力機能)

①業績登録機能



▶ research map

②流用入力機能

登録負荷を低減しつつ、機関と個人としての記録保持を両立



ご清聴ありがとうございました mhaya@nii.ac.jp